

2019年7月25日

## 日本プロテオーム学会 (2018年～2020年理事)

## 2019年 第二回理事会 議事録

開催日時: 2019年7月25日(木) 12:00～13:00

会場: シーガイアシーガイア コンベンションセンター4F 会場4(クリスタル)

参加予定者(計20名) (50音順, 敬称略)

足立淳、荒木令江、石濱泰、植田幸嗣、小田吉哉、梶裕之、川島祐介、河野信、紀藤圭治、木村弥生、久保田一石、小迫英尊、小松節子、近藤格、榊原陽一、杉山直幸、曾川一幸、堂前直、肥後大輔、本田一文、松本雅記

欠席者: 奥田修二郎、大槻純男、川村猛、高尾敏文

## 【報告事項】

## 1. 会員状況(松本)

(1) 会員数 (2019年7月9日現在)について報告がなされた(詳細は下表を参照)。

種別	会員数
個人会員	個人会員 619名 (個人会員:492名 <sup>※1</sup> , 個人会員(法人登録):127名) (昨年:608名、一昨年:614名、本年度新規入会者: 41名)
学生会員	284名 (197名 <sup>※2</sup> ) (昨年:269名、一昨年:207名、本年度新規入会者:21名)
法人会員	14社 (昨年 10社、一昨年 20社)
合計	903名+14社 (昨年:877名+10社)

※1 2016-2018年度会費未払い者 365名を除く

※2 メール不達者除外

## 2. JPrOS2019 大会報告(榊原)

- (1) 事前参加登録と当日参加登録を合わせ、現時点での大会参加者数(323名)と展示ブース数(41展示)について報告がなされた。
- (2) 懇親会の参加申し込み数(270名)についても報告があった。

## 3. JPrOS2020 大会準備状況報告(紀藤)(資料1参照)

- (1) 開催場所・期間などの開催概要およびプログラム検討状況について報告された。
- (2) JPrOS2019 大会で配布するスポンサー企業への依頼資料(フライヤー、開催趣意書)、および大会収支案についてもあわせて報告された。

## 3. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(梶)(資料2参照)

- (1) 学会賞と奨励賞いずれも2名の推薦があった。学会賞では推薦者に梶理事が含まれたため、小田理事が選考委員会委員長となり、理事による選挙で選ばれた審査員5名の委員長の計6名による審査が行われた。奨励賞では学会賞選考委員会委員長である梶理事と理事による選挙で選ばれた審査員4名の委員長の計5名による審査が行われた。その結果、以下のように決まったことが報告され

た。また学会通信(No.328)では学会賞と奨励賞の選考委員長を明記した訂正版を後日配信したことも、あわせて報告された。

- ① 学会賞(応募者2名) 選考委員長:小田吉哉
  - 梶 裕之(産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門)  
「グライコプロテオーム分析技術の開発とその応用」
  - 木下 英司(広島大学大学院 医歯薬保健学研究科)  
「リン酸化プロテオミクスのための Phos-tag 技術の開発とその応用」
- ② 奨励賞(応募者4名) 選考委員長:梶裕之
  - 伊藤 慎悟(熊本大学大学院 生命化学研究部)  
「SWATH 法による定量プロテオーム解析を基盤とした薬物動態と細胞病態に関する研究」
  - 木下 英司(広島大学大学院 医歯薬保健学研究科)  
「転写後・翻訳制御機構の解明に向けたプロテオミクス基盤技術の開発」

#### 4. KHUPO との交換講演(石濱)

(1) 2010年から続いている交換講演について、これまでの交換講演者リストと費用負担などの概略が説明された。

- ① 講演者は派遣元学会が推薦する。
- ② 派遣先学会の負担は参加費のみ(講演者への謝金あり)。
- ③ JHUPPO からの招待では、講演者への謝金の代わりに、航空券、ホテル代を直接負担する(年会ではなく学会が負担)。
- ④ 2010年から2019年の交換講演者リスト。
  - 2010年 KHUPO 山本 格、木下英司
  - 2010年 JHUPPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)
  - 2011年 KHUPO 平野 久
  - 2011年 JHUPPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)
  - 2012年 KHUPO 山田 哲司
  - 2012年 JHUPPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)
  - 2013年 KHUPO 朝長 毅
  - 2013年 JHUPPO KHUPO7 名の HUPPO2013 によるサポートで対応
  - 2014年 KHUPO 近藤 格(KHUPO 側からの推薦)
  - 2014年 JHUPPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)
  - 2015年 KHUPO 荒木令江
  - 2015年 JHUPPO Bonghee Lee (Gachon University)
  - 2016年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花
  - 2016年 JHUPPO Kwang Pyo Kim
  - 2017年 KHUPO 服部成介, 野村文夫
  - 2017年 JHUPPO Cheolju Lee
  - 2018年 KHUPO 石濱泰
  - 2018年 JHUPPO Jo-Yoel Cho
  - 2019年 KHUPO 大槻純男、太田信哉
  - 2019年 JHUPPO Jinhwan Eugene Lee

(2) 2020年はAOHUPPO との合同大会として、3月25日～28日に釜山で開催されることが報告された。

5. HUPO, AOHUPO 活動報告（石濱）

- (1) 荒木令江先生をAOHUPO diversity 枠としてHUPO 理事へ推薦し、AOHUPO 理事会にて選出されたことが報告された。また、近藤格先生をJPrOSより推薦し、8月中旬よりHUPOウェブ投票が予定されていることが報告された。現在のJPrOSからのHUPO 理事は山田哲司氏のみで、3名に戻ることを期待したい。またそれぞれの地区代表で、選ばれていない国・地域の方を理事に選出しようとする議論もなされているとの報告があった。
- (2) 2019年度のHUPO Congressは9月15日～9月18日の日程でAustraliaのAdelaideで開催されることが報告された。
- (3) 2019年度には10<sup>th</sup> AOHUPO Congressが2020年3月25日～3月28日の日程で韓国の釜山で開催されることが報告された。

6. JPrOS イニシアチブについて

- (1) プロテオームデータベースイニシアチブ（石濱）
  - ① JST ライフサイエンスデータベース統合推進事業統合化推進プログラム「プロテオームデータベースの機能深化と連携基盤強化」プロジェクトとして、2018年から推進していることが報告された。
- (2) データジャーナル Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)の刊行について(河野) (資料3参照)
  - ① 2019年度科研費の応募は不採択となったが、2020年度科研費に再度応募する予定であることが報告された。計3回は応募を継続する方針であることも、あわせて報告された。

7. 各担当理事からの活動報告

- (1) 学会誌(Proteome letters)編集活動（本田）
  - ① 7月18日に本年度の第一巻を刊行し、5論文が掲載され、学会通信でも配信されたことが報告された。
  - ② 次号以降、より若い研究者の寄稿を求めているとの要望がなされた。
- (2) 学術企画活動（植田）(資料4参照)
  - ① 2019年9月の生化学会でのシンポジウム企画「ファンクショナルプロテオミクスの最前線 -分子メカニズムの包括的解明から創薬へ-」が採択されることが報告された。あわせて当該シンポジウムの演題内容についても報告がなされた。
- (3) 教育活動（小迫／曾川）(資料5参照)
  - ① 第9回トレーニングコースが7月4日と5日に徳島大学で開催され、参加者数は13名であったことが報告された。
  - ② 基礎的な内容ではなく応用的なトレーニングコースとしたが、参加者の評判は良かったとの報告もなされた。
- (4) 国際活動（小松／近藤）(資料6参照)
  - ① HUPO 関連の活動について、C-HPP、HUPO-PSI、ICPCなどの概略が報告された。
  - ② 2019年HUPO大会では、AOAPOが中心となり農学関連で3セッションを設けることとなったことが報告された。
  - ③ 韓国の釜山で開催される2020年AOHUPO大会では、プログラム委副委員長に石濱泰氏、委員に近藤格氏が任命されていることが報告された。
- (5) 広報活動（奥田／河野）
  - ① MSP2018のJ-STAGE登録を、1月に完了したことが報告された。
  - ② 今後は人手をかけずに登録作業が完了できるかが大きな課題であることが指摘された。
  - ③ 2019年の合同大会については、JPrOSの演題をピックアップし、演題ごとに登録する予定であることが報告された。

8. 2018-2019 年度主催・後援・協賛実績（石濱）

- (1) 2019 年 3 月 15 日開催の第 16 回北里疾患プロテオーム研究会(北里大学相模原キャンパス L1 号館 33 番教室)を共催したことが報告された。
- (2) 2019 年 3 月 24 日～25 日開催の第 8 回逆相タンパク質アレイ国際ワークショップ(国立がん研究センター新研究棟 1 階 大会議室・セミナールーム)を後援したことが報告された。
- (3) 2019 年 6 月 24 日開催のプロテオゲノムワークショップ(Tokyo Cancer Moonshot Workshop)(国立がん研究センター新研究棟 1 階 大会議室)を後援したことが報告された。

【審議事項】

1. 2018 年度収支決算報告および 2019 年度予算案（木村）

- (1) 次頁以降の 2018 年度収支決算書・貸借対照表、および 2019 年度予算案にもとづき説明がなされた。5 月 17 日の総会にて承認後に決定されることとなる。説明内容の詳細は下記を参照。
  - ① トレーニングコースでの会計は、学会会計とは独立させている。学会本体は後援となっている。今後は、トレーニングコース実行委員会主催、とすることとする。
  - ② 2019 年合同大会での会計は、JPrOS で収支を含めて一括処理している。
  - ③ 課税対象の収入が 1000 万円を超過すると、消費税納税義務が生じるため、収入を調節することも今後検討する必要がある。
  - ④ 会計事務所との現契約では、年大会会計の支出・収入は契約対象外であり、学会本体の出入金は月 3 万円ほどが年数件あるくらいであり、今後の契約を適宜検討・見直す必要がある。
- (2) 蓄積されつつある学会資金の活用について、議論がなされた。詳細は下記を参照。次期理事会での継続審議となった。
  - ① 積立基金などで、予算を別枠で管理したほうが良いのでは。
  - ② 若手の教育などに活用すべきではないか。
  - ③ 若手主催の合宿など、若手中心のコミュニティーを資金的にバックアップするのに活用するのはどうか。
  - ④ トラベルアワードの充実も大切だろう。

## 【2018年度 一般会計収支決算書】

2018年4月1日～  
2019年3月31日

---

**経常収益(収入)** **10,814,169 円**


---

《 内訳 》

<b>受取会費</b>	<b>1,402,000 円</b>
（個人会員）	752,000 円
（法人会員）	650,000 円
<b>事業収益（2018年大会）</b>	<b>8,878,686 円</b>
（参加料）	3,134,859 円
（広告料）	462,958 円
（展示料）	3,531,757 円
（懇親会費）	710,702 円
（ランチオンセミナー）	951,876 円
（イブニングセミナー）	86,534 円
<b>受取寄付金</b>	<b>533,424 円</b>
<b>雑収益</b>	<b>59 円</b>
（利息）	59 円
（雑収益）	0 円

---



---

**経常費用(支出)** **8,113,268 円**


---

《 内訳 》

<b>事業費（2018年大会）</b>	<b>6,952,960 円</b>
（会議費）	59,946 円
（懇親会費）	107,624 円
（旅費交通費）	501,789 円
（通信運搬費）	3,167 円
（消耗品費）	103,659 円
（諸謝金）	12,968 円
（支払手数料）	144 円
（委託費）	6,027,495 円
（雑費）	136,168 円
<b>管理費</b>	<b>1,160,308 円</b>
（通信運搬費）	0 円
（消耗品費）	3,880 円
（印刷製本費）	251,208 円
（賃借料：WebEX 会議システム利用料）	145,800 円
（諸謝金）	30,054 円
（支払手数料）	7,272 円
（委託費）	
— Web 運営維持管理費	207,420 円
— 会計事務	514,620 円
（雑費）	54 円
（その他）	0 円

---

2018年度 正味財産増減額；2,517,694円

➢税引前正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)：2,700,901円

➢法人税、住民税及び事業税；183,207円

正味財産合計(純資産) **10,202,469円** (2019年度繰越金)

➢2017年度 繰越金(7,684,775円) + 2018年度 正味財産増減額(2,517,694円)

### 【貸借対照表】

2019年3月31日現在

(資産の部)

<b>資産合計</b>	<b>13,730,460円</b>
現金預金	13,709,040円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(35543261)	9,925,635円
2019年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(01404871)	3,783,390円
宮崎銀行	13円
2020年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(55997051)	2円
2019年大会 前払金	21,420円

(負債の部)

<b>負債合計</b>	<b>3,527,991円</b>
2019年大会 前受金	3,304,800円
2020年大会 前受金	2円
未払費用(4月に支払う会計事務所費3月分)	30,240円
預り金(1~3月に支払った源泉徴収税)	9,749円
未払法人税等	183,200円

資産合計 — 負債合計 = **10,202,469円** (正味財産合計)

## 【令和元年度（2019年度）予算(案)】

<b>収入</b>	<b>24,012,569 円</b>
《 内訳 》	
2018 年度繰越金	10,202,469 円
受取会費	
(個人会員)	600,000 円
(法人会員)	700,000 円
事業収益	
(2019 年大会開催収入)	12,500,000 円
受取寄付金	0 円
雑収益	
(利息)	100 円
(雑収益)	10,000 円
<b>支出</b>	<b>24,012,569 円</b>
《 内訳 》	
事業費	
(2019 年大会開催経費)	12,200,000 円
管理費	
(通信運搬費)	15,000 円
(消耗品費)	15,000 円
(印刷製本費)	291,060 円
(賃借料：WebEX 会議システム利用料)	0 円
(諸謝金)	30,000 円
(支払手数料)	10,000 円
(委託費)	
— Web 運営維持管理費	250,000 円
— 会計事務	520,000 円
(雑費)	
— 学会賞、トラベルアワード関連	300,000 円
税金	200,000 円
予備費 (2019 年度繰越金)	10,181,509 円

## 2. 2021年大会及び2022年大会（石濱）

- (1) 2020年第18回大会は東京で開催されることとなっており、紀藤理事を中心に堂前理事と川村理事の計3人体制で準備を進めて行くことが報告された。
- (2) 2021年以降も、おそらく複数の理事による協力体制が求められ、それを念頭に2021年の開催場所および大会長を検討していきたい。

参考資料: JHUPO大会、日本プロテオーム学会年会 (JHUPO大会)開催地及び大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回 (HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛

## 3. 学会規約の改定について(松本)(資料7参照)

- (1) 学会賞選考規程について、資料7に基づき学会賞選考委員会の選定に関する規定分の修正案が提案された。具体的には、推薦者のなかに同一研究機関の者がいても選考委員になれることと、微細な文言の修正の2点であり、修正案にもとつき承認された。
- (2) 現規程では副会長が学会賞選考委員長と定められているが、その文言または是非については継続審議となった。